

特集・狩野派の世界2003

主催：静岡県立美術館
 会期：平成15年4月12日(土)～5月18日(日)
 一部、展示替え
 休館日：毎週月曜日(ただし5/5月曜は開館、翌5/6火曜休館)
 会場：第1～第6展示室
 夜間開館：5月の毎週土曜日は午後8時まで開館(入場は30分前まで)

室町時代から明治初期まで400年つづいた日本最大の画派「狩野派」。狩野派は、足利幕府～織田信長～豊臣秀吉そして徳川幕府の御用絵師として活躍した。狩野家のルーツが伊豆であること、家康以降、駿府(現 静岡市)での絵画制作が徳川幕府の御用絵師である狩野派によって担われていたことなど、静岡県は狩野派とゆかりが深く、県内伝来の作品も少なくない。このような事実に注目し、当館では狩野派の作品を系統的に収集を進めてきたが、平成14年度末現在で54点(36件)を数えるにいたり、当館コレクションのなかでも特色ある作品群となっている。

平成11年7月、当館蔵の狩野派作品を一挙公開する「特集・狩野派の世界」展を開催、それから4年が経過。この間、「数年に一度でも狩野派の特集展示をみたい」という声も少なくなかった。そのような声に応え「特集・狩野派の世界2003」を企画した。

今回展では、館蔵品だけでなく新発見あるいは初公開の作品などを所蔵家から借用し、前回展で大きく欠けていた桃山時代を充実させた。展示区分は、「1. 室町・桃山時代の狩野派」「2. 狩野探幽とその周辺」「3. 京狩野の系譜」「4. 江戸狩野の系譜」「5. 幕末～明治初期の狩野派」で、室町～桃山時代の狩野派から幕末明治初期におよぶ56件(84点)を展覧。新発見11件をふくむ16件は初公開となった。なお、会期中に新たに発見された2作品を追加出品した。

御用絵師狩野派という、ある種近寄りがたい気持ちを持たれがちであることから、絵そのものについての150字程度の解説を日常語を多用して全作品にほどこし、敷居の高さを感じさせないよう配慮。古美術展にしては、くだけすぎの解説という苦情も一部あったが、若年層を中心に、それを上回る支持を得ていることが、アンケートに明瞭に示めされた。

いずれにしても、山水画・花鳥画・物語絵・人物画などさまざまな画題、屏風・掛幅・巻子などさまざま

な画面、伝統的な日本画の姿にふれる絶好の機会となり、伝統の底力、大画面の迫力を作品の前で体感できる場になったことは間違いない。今後も、数年に一度、狩野派の特集展示を企画・開催していきたい。

カタログ

27.0×20.5cm 15p.

図版

作品諸データ・掲載文献・特記事項

『狩野派の世界——静岡県立美術館蔵品図録——』(静岡県立美術館 1999年7月)の別冊として作成(主要刊行物の項参照)

関連記事

朝日新聞 4月22日/全国版夕刊「ナビゲーター」
 紹介記事と出品作品(狩野派合作《牛馬図》)モノクロ写真掲載
 NHK新日曜美術館 NHK教育テレビ 5月11日
 9:00～10:00、20:00～21:00/「アートシーン」
 芸術新潮 2003年6月号/「STARDUST」紹介記事と出品作品(狩野派合作《牛馬図》)カラー写真掲載



ポスター

